

方面	秋季演習場定期整備	(1面)
1師団	師団演習	(3面)
12旅団	訓練検閲	(4面)
1施設団	訓練検閲	(5面)
関東補処	陸曹候補生履修前教育	(5面)



令和5年11月25日 第1066号

総監統率方針「強靱な東部方面隊の創造」
総監要望事項「万事作戦を基準」

陸上自衛隊東部方面隊広報誌
発行所：方面総監部広報室
住所：東京都練馬区大泉学園町
専用線：8-37-2446



MCV射場を整備する第12施設隊(相馬原演習場)

道場をより効果的に 演習場整備で機能の維持・拡充

方面隊は10月23日から11月1日までの間、相馬原・関山演習場において令和5年度方面隊秋季演習場定期整備を行った。本整備は各部隊等の練成道場である演習場の機能を維持・向上させるとともに、より効果的な訓練を実施するための基盤を拡充し、併せて長期の安定使用に寄与することを目的として実施した。



伐木する第48普通科連隊(相馬原演習場)



松ヶ峰廠舎を整備する第306施設隊(関山演習場)



器材整備をする第12後方支援隊(関山演習場)



機動路を整備する第5施設群(関山演習場)

各演習場ではそれぞれの運用構想に基づき、教育訓練上のニーズに合わせた隊員・部隊の任務遂行能力向上に資する基盤を整備するため、16式機動戦闘車(MCV)機動路の整備(拡張、伐木、新設)、各射場の新設・整備、各部隊は計画通り整備任務を完遂し、地域の安全及び訓練基盤の充実に寄与した。

各演習場の整備期間最終日に実施した編成解組式では、本演習場整備で整備に貢献した隊員の功績を称え、多数の優秀隊員が褒賞された。

令和5年度東部方面音楽まつり 開催



轟音を響かせた
4コ自衛太鼓



迫力の演奏を披露する東部方面音楽隊



若さ溢れる和光高校
吹奏楽部との共演



近隣合唱団とのコラボ演奏

方面隊は令和6年2月23日(金・祝日)、和光市民文化センターサンアゼリアホールにおいて、令和5年度東部方面音楽まつりを開催する。

出演は東部方面音楽隊、第1音楽隊、第12音楽隊、朝霞振武太鼓、北富士天王太鼓、松本アルプス太鼓、滝ヶ原雲海太鼓等が出演を予定している。

当日は午前10時30分開演と午後2時30分開演の2回公演を行い、入場は無料。一般公募については12月中旬頃から東部方面隊ホームページにて応募受付を予定している。

※写真はすべて令和4年度に撮影



聴衆を魅了した
12音 藤嶽3曹の歌声

東部方面隊オピニオンリーダー

特科射撃等を間近で研修 自衛隊の任務を深く理解



遮断下掩蔽部前での事前教育

方面隊は10月19日、富士駐屯地及び東富士演習場において東部方面隊オピニオンリーダー21人に対し、富士近迫射撃研修を実施した。

参加者は富士駐屯地を訪れ、富士学校長からの概況説明を聞いた後、大型トラックで東富士演習場へ移動し、遮断下掩蔽部から155m榴弾砲射撃等を研修した。実弾射撃を目の当たりにした参加者は、その迫力に終始圧倒されている様子で

あった。また射撃終了後、弾着地を研修した。研修終了後、参加者から「20年以上にわたり、さまざまな研修に参加してきたが、富士近迫射撃が1番リアルだった」「実際の訓練、緊張感を感じました。弾頭の威力の凄さを恐ろしいと感じました」などの感想があった。

参加者は今回の研修を通じて、陸上自衛隊及び富士学校に対する理解の深化を図り、今後の活動の資を得た。



弾着地を研修する参加者



幕僚副長(行政)と懇談する参加者



帰国報告を行う派遣隊員



帰国後の記念撮影

東ティモール能力構築支援

総監へ帰国報告

総監は10月30日、東ティモール民主共和国における能力構築支援「ハリイ・ハムトゥック23(HI23)」に参加した派遣隊の帰国報告を受けた。本事業は豪軍主催のH

HI23において東ティモール国防軍に対し、施設分野及び車両整備分野に係る技術指導を実施し、日・豪・米・ニュージールランド・東ティモール5カ国の連携の維持及び強化を図ることを目的に行った。

派遣隊員は第101施設器材隊、第1施設団本部付隊、東部方面後方支援隊、第34普通科連隊及び第31普通科連隊の他、

- 【派遣隊員】
- 交通作業班
 - 第101施設器材隊
 - 3等陸佐 古賀大智
 - 2等陸曹 鈴木雅裕
 - 2等陸曹 大野隆也
 - 2等陸曹 濱崎 誠
 - 3等陸曹 高橋 功熙
 - 3等陸曹 村山 将吾
 - 3等陸曹 田上 孝也
 - 車両整備班
 - 第302普通科直接支援中隊
 - 2等陸曹 三浦 智宏
 - 通信教育直接支援中隊
 - 2等陸曹 藤宮 典子
 - 第105全般支援大隊
 - 3等陸曹 田島 優希
 - 通訳班
 - 第34普通科連隊
 - 3等陸曹 小澤 史康
 - 第1施設団本部付隊
 - 3等陸曹 宮原 左也
 - 第31普通科連隊
 - 2等陸曹 小林 美宏

オールドメイド型職業説明会 自衛隊入隊に向けて

総監部は10月20日、25日及び11月2日、朝霞駐屯地ツアー(オールドメイド型職業説明会)を実施した。

本職業説明会は自衛隊に入隊・志願予定の大学生33人が参加し、自衛隊

の概要説明、職種説明、東部方面指揮所訓練支援隊の戦闘シミュレータの研修等を行った。その後、電磁波、サイバー、法務、心理を各分野担当者が個別説明を行った。

また職業説明会の最後に幕僚副長(行政)、人事部長と懇談を行い、参加者は堂々と質問する等、自衛隊の魅力を感じたのか、意欲的であった。

参加者は「入隊前に専

門分野の話や経験を聞くことができ、とても参考になった」「自衛官としての自分をイメージすることができ、とても満足した」などの感想があった。

※オールドメイド説明会
参加者が説明を希望する職種・分野を選択できる説明会

朝霞駐屯地ツアー

50人が自衛隊を体験



大演奏場で行われた音楽演奏



戦闘糧食を加熱する参加者

広報センターは10月14日、朝霞駐屯地において朝霞駐屯地ツアーを開催した。

本イベントは体育学校(資料館、馬術訓練場)見学、振武臺記念館見学、東部方面音楽隊の演奏見学、駐屯地施設案内、体験喫食等の内容が盛り込まれ、一般公募において当選した50人が参加した。

参加者は体育学校資料館において、オリンピッククマダリストが競技で着用したユニフォーム等を見学した。また音楽隊の演奏では、普段入ることのない音楽隊の大演奏場でYOSOB Iの「アイドル」やダンスニードレーなど4曲の生演奏を楽しんだ。体験喫食では加熱剤を用いた加熱準備から体験し、戦闘糧食を喫食した。

参加者からは「音楽隊の演奏が知っている曲ばかりで楽しかった」「戦闘糧食の準備は貴重な経験だった」などの感想があった。

広報センターの開館日は、事前予約なしで来場することができます。来館に当たっては、イベント予告、注意事項、休館日などの情報が載っているホームページを事前にご確認ください。

広報センターは
こちらから

第1師団 市街地・山野の特性に適応して任務を完遂 令和5年度第1次師団演習(第2次訓練検閲)

師団は9月11日から26日までの間、東・北富士演習場 練馬、朝霞及び立川駐屯地において第1次師団演習を実施し、首都機能の維持及び師団の陣地攻撃に係る練度の向上を図った。併せて第1偵察戦闘大隊、第1施設大隊及び第1飛行隊に対して訓練検閲(第2次師団訓練検閲)を実施し、教育訓練の成果を評価するとともに、その進歩向上を促した。

本演習及び検閲は、治安出動下及び防衛出動下の規定で実施した。師団はゲリラ・コマンドウへの対処、師団の陣地攻撃における各部隊の指揮幕僚活動、部隊の基本的行動及び隊員の基礎動作について演練・評価した。

本演習(検閲)実施に当たり統裁官(師団長)は「戦い方を創造し徹底せよ」「情報と火力と機動の連携を寄与せよ」「非戦闘損耗を局限せよ」の3点を要望した。

【対ゲリラ・コマンドウ】師団各普通科連隊は9月12日から15日までの間、関係機関との調整、包囲環の形成、スクリーニング、住民の避難・誘導及び敵の索敵・掃討等の行動を一連の状況下で実施した。この際、より実践的な訓練とするため、朝霞駐屯地の施設を実際の市街地に見立てて使用し、師団各普通科連隊の対抗方式により行った。

また師団各普通科連隊以外の受閲部隊を含む各部隊は、武装工作員の捜索・鎮圧・撃滅に任ずる普通科部隊への戦闘支援を行った。さらには想定に基づき都内に所在する練馬駐屯地、朝霞駐屯地及び立川駐屯地を訓練地域として使用し、各隊舎を重要防護施設と見立て

て、直接防護するとともに、関係機関及び部隊間の連携に留意しつつ各種事態に対処した。

9月19日から23日までの間、34普通連対抗部隊として32普通連が陣地攻撃を行った。そして1偵戦大は情報収集及び重要目標に対する襲撃等に任ずる部隊としての行動を、1施大及び1飛は全般支援に任ずる部隊としての行動について訓練検閲を受閲した。また他の師団各部隊は、各部隊長計画により自隊の任務に応じた練成訓練を実施し練度の向上を図った。

1偵戦大は情報と火力と機動の連携を図り、周到な計画・準備をすすめ敵の重要目標に対する襲撃行い師団攻撃に寄与して任務を完遂した。

1施大は師団の陣地攻撃における情報と火力と機動の連携を最大限に発揮し得るよう、主要幹線における障害の処理及び07式機動支援橋架設による補給幹線を維持して任務を完遂した。



32普通連と連携し包囲環の形成(1偵戦大)



重要目標の襲撃(1偵戦大)



三者連携した射撃

師団は10月6日から17日までの間、六ヶ所対空実射訓練場(青森県)において、12・7mm重機銃(HMG)対空実射訓練を実施した。本訓練は32普通連隊長を担任官として、師団隷下部隊、大臣・方面直轄部隊のHMGを装備する部隊の要員(51人)に対し、対空射撃時の射撃の誘導要領、組長、射手及び弾薬手の連携要領を修得させることを目的に実施した。今回は過去の射撃成果

必墜の精神で命中 六ヶ所でHMG対空実射訓練

実射訓練場(青森県)において、12・7mm重機銃(HMG)対空実射訓練を実施した。本訓練は32普通連隊長を担任官として、師団隷下部隊、大臣・方面直轄部隊のHMGを装備する部隊の要員(51人)に対し、対空射撃時の射撃の誘導要領、組長、射手及び弾薬手の連携要領を修得させることを目的に実施した。今回は過去の射撃成果

を踏まえ、水平斜めから侵入する目標に対する追隨射撃、射距離400m(第3習合)の練度向上を重視して行われた。各部隊から参加した隊員は3人1組となり、組長の号令・誘導の射撃指揮、弾薬手の適切な補助を受け、射手は正確な照準、弾薬目標の追隨等三者が連携しつつ対空射撃を行い、標的となる模型飛行機(RC-MAT)を撃墜した。各部隊は日頃の練成成果を遺憾なく発揮し、師団全体の対空戦闘能力の向上を図った。



協同作業による絆の強化(32普通連)



ヘリによる潜入を想定した特殊卸(34普通連)

師団は32普通連、34普通連が実施する部隊集合教育「レンジャー」の実施に当たり、首都機能の維持に必要な能力を考慮した到達基準及び教育課目を開始申告後には、歴代

市街地戦にも対応した新「レンジャー」 部隊集合教育「アーバンレンジャー」

新たに設定した。この際、師団の部隊集合訓練「レンジャー」を「アーバンレンジャー」と呼称を変更し、9月11日から32普通連と34普通連が訓練を各々開始した。レンジャー学生はアーバンレンジャー隊員として必要な知識と技能を修得するとともに、強靱な体力及び不撓不屈の精神を涵養するため、己自身と戦っていく。それによりダイヤモンドのごとく堅い意志、光り輝く精神・技術を保持する市街地戦にも対応した新「レンジャー」第1期隊員の誕生を期待する。



34普通連のヘリボン支援(1飛)



積極的な航空偵察(1飛)



1普通連突入をバケットローダで支援(1施大)



07式機動支援橋架設(1施大)

優秀隊員の紹介	【第4級賞詞】	崇士長
戦闘中水上	(1偵戦大)	
【第5級賞詞】	戦闘中笹本	智員 3曹
(1偵戦大)	大本 西川	寛人 1曹
(1施大)	本管中 田中	和輝 3曹
整備班 柏田	匠太 3曹	
【褒章】	本管中大杉	真一 1曹
(1偵戦大)	偵察中澤田	翔太 2曹
(1施大)	1中 渡邊	篤曹長
	2中 遠藤	隆尚 1士
	3中 小椋	健大朗 3曹
整備班	橋本	勝 1曹
通信班 井上	貴之 2曹	



10月5日、自衛隊体育学校(朝霞駐屯地)で第27回全自衛隊陸上競技会が開催され、第1師団から1普通連、32普通連、34普通連及び1後支連の隊員が参加した。本陸上競技会は各種目の参加標準記録を突破した陸・海・空の3幕の隊員が出場し、自衛隊の頂点を決める大会である。近年はコロナ禍の影響もあり、規模を縮小しての大会であったが、今年度は参加標準記録をクリアした全隊員が参加するコロナ以前の規模での開催となった。

男子5000mでは1普通連から参加した隊員が、他を寄せ付けない圧倒的なレース展開で上位を独占(写真上)した。さらには、もっともエントリィ数の多い95人が参加した男子3000mのレースにおいても、強豪勢を抑えて34普通連の隊員が3位入賞(写真下)の快挙を果たした。

人賞者紹介
▼男子5000m
優勝 日野原 智也 1士
第2位 中光 捷 1士
第3位 古川 隼 2士
▼男子3000m
第3位 光又 幸平 3曹

第12旅団

第2次旅団訓練検閲 旅団空中機動訓練も兼ねる

旅団は10月3日から10日までの間、岡山演習場及び相馬原演習場において第2普通科連隊、第12後方支援隊、第12高射特科隊及び第12施設隊の4

コ部隊の受閲部隊に對し、令和5年度第2次旅団訓練検閲を行った。また併せて本年度2回目となる旅団空中機動訓練を実施した。

本訓練検閲等の実施に当たり旅団長は共通の要望事項として「即応力の強化」「地形・気象と敵の脅威を克服した柔軟な空中機動による作戦の遂行」「安全管理の徹底」を、また訓練検閲受閲部隊に對しては「指揮の要訣の実践」「敵を

た。本訓練検閲等は岡山演習場と相馬原演習場をそれぞれ離島に見立て、2普通連は防衛戦闘や空中機動による部隊展開を、12後支は戦況の推移に依じた兵站支援や物資・傷病者等の航空輸送に係る支援を、12高射は対空戦闘や空中機動による対空火

器(携帯SAM)の転用を、12施は経空脅威下での陣地構築の他、ヘリによる地雷散布を含めた障害構成を実施した。また共通項目として国民保護、被拘束者の取り扱い、UAVやドローンへの対処の他、対衛星行動、サイバー攻撃・電子戦対処など、新領域を含む実践的な環境作爲の中で行われた。

訓練検閲等開始とともに寒気の影響で気温が一気に下がった影響により、妙高山で初冠雪を記録する等、体調管理が難しい状況であったが、各部隊は練成成果を遺憾なく発揮して任務を完了し、本訓練検閲等を終了した。



高機動車の機内搭載(2普連)



UH-60による傷病者搬送(12後支衛生隊)



07式機動支援橋の展開(12施)



対空戦闘準備(12高射)

なお本訓練検閲には、旅団隷下の訓練検閲を受閲する第48普通科連隊、東部方面特科連隊第2大隊等が、対抗部隊や配属・協同部隊として参加した。

旅団は8月21日から新発田駐屯地、大日原演習場及び同周辺地域において第30普通科連隊長を担任官として、令和5年度旅団レンジャー集合教育(養成)を実施中である。(10月25日現在)

旅団は8月21日から新発田駐屯地、大日原演習場及び同周辺地域において第30普通科連隊長を担任官として、令和5年度旅団レンジャー集合教育(養成)を実施中である。(10月25日現在)

さらなる過酷な行動訓練へ

旅団は8月21日から新発田駐屯地、大日原演習場及び同周辺地域において第30普通科連隊長を担任官として、令和5年度旅団レンジャー集合教育(養成)を実施中である。(10月25日現在)



消防と連携して要救助者の搬送準備をする隊員

旅団は9月16日、みどり市東運動公園において群馬県及びみどり市が主催する令和5年度群馬県総合防災訓練に第12後方支援隊、第12偵察戦闘大隊及び第12高射特科隊が参加させた。

土砂災害が発生した想定で行われた。災害情報収集訓練として12偵戦大隊がオートバイによる情報収集を行い、無線で状況を報告するとともに、災害用ドローンにより映像伝送を実施した。



水路から潜入するレンジャー学生(第4想定)



命令下達中のレンジャー学生(第5想定)

旅団は8月21日から新発田駐屯地、大日原演習場及び同周辺地域において第30普通科連隊長を担任官として、令和5年度旅団レンジャー集合教育(養成)を実施中である。(10月25日現在)

初弾必中 行進射撃 令和5年度第1回射撃練度判定



行進射撃を行うMCV(12偵戦大)

戦闘中隊は練度判定に当たり、事前に射撃予習などの練成訓練を重ね実弾射撃に臨んだ。各MCVは、車長、砲手、操縦手、装てん手の連携により、105mm砲と7.62mm連装銃の行進射撃等を行い、所望の成果を得た。

第12偵察戦闘大隊は10月9日から12日までの間、東富士演習場において令和5年度第1回機動戦闘車射撃練度判定を行った。本練度判定は同大隊の戦闘中隊に對し、一連の状況下における車長の単車指揮、乗員の各個動作及び乗員連携を向上させ、16式機動戦闘車(MCV)の単車戦闘射撃練度を評価・判定する目的で行われた。

混成団

31普連が小火器射撃競技会

重迫中隊が3連覇

第31普通科連隊は9月25日から26日までの間、東富士演習場において令和5年度連隊小火器射撃競技会を実施した。本競技会は小火器射撃



集中して射撃する隊員

の練度向上のために毎年開催されており、7コ

中隊が参加して小銃の射撃技術を競い合った。競技会実施要領は目標へ向け前進し、4力所の射座（射撃位置）で射撃をする戦闘射撃で行われた。姿勢については自由、1力所の射座で4回4秒間現出する2コ的に

対して2発ずつ射撃し、計16発的にどれだけ命中したかを競い合った。結果は重迫中隊が優勝し、3連覇となった。優勝した重迫中隊と準優勝の第5中隊とは0・15秒の僅差であった。重迫中隊で射撃教

官を務めた三橋2曹は「3連覇できたのは中隊長をはじめ、一生懸命練習してくれた皆のおかげです」と周囲への感謝を語った。連隊はさらなる射撃技術の向上を目指し、練成訓練に励んでいく。

特科連隊

第2大隊が訓練検閲 旅団検閲の場を活用



轟音を響かせたFH-70射撃

東部方面特科連隊は9月28日から10月9日までの間、第2大隊検閲を実施した。本検閲は連隊新編後、先に行われた第1大隊検閲に引き続き、第2大隊として初の検閲であり、これまで計画的かつ段階的に積み上げてきた指揮幕僚活動、火力戦闘及び特科射撃の練度を評価・判定し、後の進捗・向上の資とするものである。受閲部隊は検閲のスタートとして28日、東富士演習場において実射検閲を実施した。受閲部隊は

これまで積み上げてきた射撃練度を遺憾なく発揮し、精度・速度ともに良好な成果を得た。戦術行動では大日原演習場において、3日から4日にかけて、約40キロメートルの徒步行進を実施した。徒步行進に引き続き大日原演習場・関山演習場において9日まで、第2次第12旅団検閲

特科連隊は今回の検閲で得た成果を生かし、引き続き、連隊の戦力化完了に向けまい進する。この場で旅団に配属された増強特科大隊としての行動を検した。受閲部隊は近接戦闘部隊と綿密に火力調整を行うとともに、状況に適合した部隊運用を適切に行い任務を達成した。



徒步行進をする受閲隊員

後支隊

71人の新隊員が特技取得 それぞれの配置先へ



表彰状を受け取る新隊員(武器科)

東部方面後方支隊は7月1日から朝霞駐屯地において、新隊員後期教育「武器科」及び「輸送科」を担任した。武器科では教育担任官日向2佐の要望事項「学ぶことを楽しもう」の下

で行われ、新隊員51人は専門特技の難しさを味わいながら同期と切磋琢磨し、楽しむ気持ちをもつ

て座学・実習に励んだ。前期教育では、自衛官としての基礎的事項を学び、後期教育では専門分

野での基礎的事項を学び、自衛官、社会人としてより大きく成長した。輸送科では教育担任官

辻本1佐の要望事項「操縦とは何かを掴み取れ」「同期を大切にせよ」の下で行われ、新隊員20人

は「車両は任務を遂行するために必要不可欠な相棒」であることを認識し、任務完了には何が必要か、何をすべきなのかを考えながら教育に励んでいた。また年齢・経験の異なる同期が生活を共にし、互いを助け合い成長していく姿も見られた。



修了式後の記念写真(武器科)



教育の修了申告をする新隊員(輸送科)



修了式後の記念写真(輸送科)

各教育は計画通りに実施され、武器科は9月15日に、輸送科は10月24日にそれぞれ教育修了式が行われた。たくましく成長した新隊員たちは、期待を胸に配置先へと巣立っていった。

音楽隊の顔として演奏と司会

東部方面音楽隊 3等陸曹 近藤 祐未



司会をする近藤3曹



演奏する音楽隊

東部方面音楽隊は10月7日から10日までの間、白馬村、大町市及び松川村において長野巡回演奏を行い、多くの聴衆が訪れた。プログラムは長野の民謡「木曾節」を含んだ東部方面音楽隊の委嘱作品「ふるさとの歌」、今年度の全日本吹奏楽コンクールの課題曲「レトロ」などを選曲し、幅広い客層に対し音楽の魅力を届けた。クラリネット奏者と司会を兼任した近藤3曹は「演奏目的が違えば雰囲気や客層も違い、進行の仕方も変える必要があります。司会者として観客の心を掴むことは重要な役割ですが、時には演奏者のモチベーションを高めることも意識して話しています。そして隊員の士気は演奏の質にも反映されますし、会場の雰囲気にも良い影響をもたらします。そのような演奏効果を最大限に発揮することも進行役として大事な任務だと思っています。また演奏会は実戦であり、時には本番中に予想しないハプニングも起こります。そのような状況の中で、進行はやり直しが利かないため緊張感があります。このため突発的な状況にも柔軟かつ冷静に対応できるように常にさまざまな腹案を持つことを心掛けています。司会は演奏会において言葉を発することができる唯一の立場です。声の高さ、大きさ、話すスピードなど常に細心の注意を払っています。そして進行役としての話し方の表現と演奏者としての表現の両方を体現することで結果的に自衛隊の魅力発信することに繋がれば、進行員に尽きると思っています」と所感を述べた。今後も、広報の第一線部隊として隊は一丸となりまい進していく。

神奈川地本

護衛艦「いずも」研修

調理専門学生が調理場を見学



調理場を研修する専門学生

自衛隊神奈川地方協力本部横須賀地域事務所は9月19日、海上自衛隊横須賀地方総監部(横須賀市)において実施された

護衛艦「いずも」の研修に、ヨコスカ調理製菓専門学校(神奈川県)の学生及び教職員35人を引率した。当日は少し冷たくなつた海風が秋の訪れを感じさせる中、総監部において、横須賀地方総監の伊藤海将から説明を受けた後、護衛艦「いずも」を見学した。

調理中の調理場を見学する中で、調理場の設備や調理に特化した研修を計画していたが、参加した学生の貴重な経験になったと話していた。

食事は艦艇に乗る海上自衛官にとって楽しみであるとともに、日々の厳しい訓練に耐える身体を作る重要な要素である。

横須賀地域事務所はこの研修を契機に、学生が自衛隊に入隊し、高い調理技術を駆使しておいしい食事を作ってくれたいことを期待している。

訓練所感

東部方面システム通信群 第105指揮所通信大隊 3等陸曹 中山 頼佳



小隊検閲を受閲して

3年8月より第105指揮所通信大隊指揮所通信中隊に勤務している中山3曹です。大隊長要望事項「覚悟を決めよ」、中隊長要望事項「進化」「深化」を胸に掲げ「必通の信念」を信条に日々任務にまい進しています。9月11日から9月13日までの間、東富士演習場において実施された通信小隊訓練検閲に参加しました。班・組一丸となって、任務を完遂するという信念を持ち、迅速に通信手段

長野地本 長野県任期制隊員合同企業説明会



専門学生に説明する横須賀地方総監

自衛隊長野地方協力本部は9月28日、ホテルブエノスタ(長野県松本市)において一般財団法人自衛隊援護協会東京支部(支部長・柏瀬 静雄)主催の元、長野県任期制隊員合同企業説明会を開催した。

本説明会は長野県内での再就職を希望する任期満了退職予定隊員を対象に、希望に合致した再就職を実現させることを目的として毎年開催しているもので、今年度は長野県内外から陸・海・空合計20人の隊員が参加し、長野県内の退職自衛官雇用協力企業42社の説明を受けた。

説明会は参加企業を午前・午後に分けての2部構成となっており、各人ごとに関心を持った企業8社を事前に選り抜いた。隊員は初めこそ緊張を隠し切れない様子だったが、2、3回目と面談を重ねる中で緊張も解け、真剣な眼差しで説明を聞き、積極的に質問していた。また企業側も人材の獲得に向けて、自社アピールに熱を入っていた。

参加した隊員からは「これまでの準備の成果を十分に発揮することができた。マッチングの結果に期待したい」「自衛隊出身の先輩社員の話は、入社後の自分の姿を考えた。

また再就職した隊員が予備自衛官や即応予備自衛官に志願し、訓練等に出席しやすい環境を醸成するため、会場内に予備自衛官等コーナーを設置し、企業に対する予備自衛官等制度の広報を行った。

隊員が面談を行っている間、彼らの直属の上司である中隊長を対象とした中隊長等職能向上訓練も行われた。訓練では部外講師が「企業が求める人材像」と題して、企業が採用に当たって重視する点や、人生100年時代に向けて求められるスキル等について講義した。参加した中隊長等は「普段なかなか触れる機会の少ないテーマに関心をもち、今後聞くことができた。今後の就職指導に役立てたい」と話した。

自衛隊長野地方協力本部は退職予定隊員が希望する企業へ再就職し活躍できるように、今後も引き続き親身な就職の援助を実施していく。

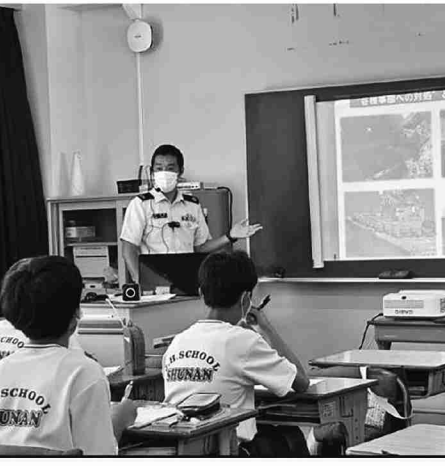
ある! ある! 自衛隊



説明会に参加した任期制隊員



就職に係る講義を受ける中隊長



自衛隊を紹介する菊地2曹

静岡地本 子供たちの将来に向けて 中学校の未来授業に参加

自衛隊静岡地方協力本部袋井地域事務所は9月13日、袋井市立周南中学校で行われた未来授業に参加した。本イベントは一般社団法人未来学校が主催したもので、さまざまな職業に就いている大人が、子どもたちに働くことの楽しさや生きがいなどを伝え、将来の夢や可能性を広げることを目的に行われた。

授業の最初には、生徒たちが事前に作成した名刺を講師と交換した。名刺の裏にはそれぞれが所属する部活動や将来の夢などが記載されており、菊地2曹はそれを見ながら一人一人に質問をして生徒たちの緊張をほぐした。

授業の最初には、生徒たちが事前に作成した名刺を講師と交換した。名刺の裏にはそれぞれが所属する部活動や将来の夢などが記載されており、菊地2曹はそれを見ながら一人一人に質問をして生徒たちの緊張をほぐした。

授業の最後には、生徒たちが講師と交換した名刺を講師と交換した。名刺の裏にはそれぞれが所属する部活動や将来の夢などが記載されており、菊地2曹はそれを見ながら一人一人に質問をして生徒たちの緊張をほぐした。

最前任 上級曹長

「准曹士の意識改革」

第12旅団

伊澤 芳明 准陸尉

令和5年7月21日付で第7代第12旅団兼ねて相馬原駐屯地最前任上級曹長に上番した伊澤准尉です。

上番して約3カ月が経過しました。この3カ月の期間で部隊の現況把握

や野外行動、訓練検閲等への参加を通じて、旅団准曹士の隊務への取組み状況や戦闘員としての意識といったものがどの様な状況か、ようやく見えってきました。

私は旅団准曹士の最上

位者たる最前任上級曹長の役割の一つは「隊員の育成」であると思っています。作戦基本部隊である第12旅団の最前任上級

曹長として、第12旅団が任務を完遂するため、現在隊員一人一人に求められていることは「意識の向上」であると考えてい

ます。その理由として、昨今の不安定な国際情勢によって自衛隊を取り巻く環境は、更に厳しさを増している状況であるこ

と、同時にわれわれ准曹士に求められているものや期待されていることも、ひと昔前とは比較にならないくらい大きくなっているということ

特に宇宙・サイバー・電磁波といった新領域における戦い方について隊員に意識させ、危機感を持たせることが重要と考えています。最近では各種メディアを通じてウクライナの戦闘の様相を目にする機会が日常化しています。新領域をはじめ、今までの戦争・紛争において行われていなか

った新たな戦い方について非常に興味深く観察しています。「意識の向上」のため、これらの新たな戦い方における教訓を踏まえて隊員の意識改革、基本基礎の更なる普及・改善を図っていくのが有効であると考え、具体的な施策を現在思案中です。

「隊員一人一人が意識することが重要」「隊員一人一人に意識させる施策が必要」と常に念仏のようには唱えながら旅団長統率方針「使命の完遂」を実践できる隊員の育成に奮闘します。

私は平成26年に即応予備自衛官に志願した養田予備3曹です。普段は長野県松本市で「エマージョンスーパーサポートネット」という個人事業を経営しています。事業内容は「減災のための教育及びコンサルティング」や「エンターテインメント（俳優、モデル、所作指導）」等です。10年ほど前に映画のエキストラに参加したのをきっかけに俳優となり、現在放送中のウルトラマンブレーザーの第1話と第12話で第1特殊機動団の室田役として出演しました。

習場で行われた方面分隊戦闘射撃競技会に参加した際初めてフル装備、フル弾倉にブレット入りの防弾チョッキを着用して機動しながら実弾射撃をしたことです。競技会が始まるまでは、あまりの重さに「これは…む、無理だ」と思いましたが、いざ始まってみると不思議と力が湧いてきて身体を動



即応予備自衛官

第48普通科連隊

養田 和裕 即応予備3等陸曹



かすことができました。競技会の後は、3日間筋肉痛が治らず「しゃがむの…む無理…」ととても良い経験となりました。即応予備自衛官は陸自はもちろん海自、空自でさまざまな職種を経験した者が、一般社会で働きのながら再び自衛官となり、柔軟でしなやかな考えを持つ常備隊員と出会い、公私にわたりのいろいろな助言をもらいながら、日々成長することが出来ます。また俳優と即応予備自衛官の両立は、いつも中隊が柔軟に対応してくれるので、とてもやりやすいです。



「信州より笑顔を含めて」 第335会計隊 高橋 千里 3等陸曹

兄も同じように災害派遣に携わっている姿に感銘を受けたからです。

Q2・会計職種を選んだ理由は？

最初は両親と同じ航空科が希望でしたが、予想外の会計職種でした。今では自分に合っていると思っています。

Q3・普段の業務とその魅力は？

会計係として支払業務と旅費業務を行っています。旅費業務は各部隊の旅費担当者の方と調整等を行っています。他部隊に調整することが多い業務なのでどんなに忙しくてもなるべく対面で調整することを心掛けています。直接顔を合わせることで意思疎通がしやすい利点もありますが、信頼

関係が築きやすいからです。

Q4・休日の過ごし方は？

少しでも休みがあれば旅行に行っています。以前は国内旅行によく行っていましたが、最近韓国に行き、海外進出を果たしました。今後の目標は日本全国制覇と海外ディズニー制覇です。また友

達がUSJ年間パスポートを持っているので、迷った時は、すかさずUSJと大阪を観光します。

輝く笑顔の高橋3曹の今後の活躍に期待したい。

普通科教導連隊所属時に富士登山駅伝の2区を走り、優勝したことが一番の思い出です。第1普通科連隊ではそれを越える最高の思い出ができるよう持続走のみでなく、何事にも挑戦していきたくて再入隊を決心しました。

Q2・自衛隊で一番印象に残っている出来事は？

「継続は力なり」です。持続走練成隊での経験を

通じて目標に対する努力を惜しまなければ、必ず力になり結果に繋がるということを実際に体感できたからです。この経験から体力錬成を継続したいと思っています。

Q3・座右の銘は？

「継続は力なり」です。持続走練成隊での経験を

戦士になることができずした。

Q4・今後の目標は？

陸曹になり、体力のみでなく精神力を鍛えるためレンジャー教育に挑戦したいと思っています。

Q5・最後に一言？

民間での勤務を経験し、自衛隊に再入隊した経験等を生かして、後輩たちにアドバイスできるように頑張りたいです。

また持続走練成隊で再び富士登山駅伝で優勝できるように努力し続けていきたいです。

「根拠・規則と理屈」

「この訓練の根拠・規則は…」説明するには理屈だから「今日も、上司に仰指す際、指導される。幹部候補生や3尉任官後、幹部となり「ノリと勢い」で仕事ができることはなくなりました。

「忙しくて読み込む時間はないよ、規則なんて必要あるか」若輩者の当時はそう思っていた。しかしながら中隊長等責任ある地位になりその重要性に気付く。防衛警備、災害派遣任務等全ては「自衛隊法」等規則に基づき行動し、例えば隊員が訓練で怪我をした時守るのにも規則、また部下隊等に説明する際、「過去こうなっており、経験上こう思います」といくら言っても納得させることはできず、「〇規則、〇条により、幕僚案としてこのように考えます」と真摯に説明すれば部長長等も納得してくれる。

当時は煩わしいと思った上司に今では感謝するとともに、入口教育の重要性、この教訓等を継承していきたいと考えます。

今月のフェアレディは、第335会計隊（松本駐屯地）の高橋3曹です。高橋3曹は東京都八王子市出身の24歳、家族構成は父（航空科・高湯原）、母（航空科・木更津）、兄（航空科・木更津）で、平成30年3月に入隊して一家全員自衛官となりました。

Q1・入隊の動機は何ですか？

東日本大震災の際、テレビで活躍する自衛官の姿を見て、自分の両親や



今月の東方男児は、体力検定（陸士の部）で師団ナンバーワン戦士に選ばれた体力の持ち主の高久士長です。高校卒業後に普通科教導連隊で2任期勤務し、退職後はア

東方男児

「継続は力なり」 第1普通科連隊 高久 貴智 陸士長



「継続は力なり」です。持続走練成隊での経験を

「継続は力なり」です。持続走練成隊での経験を

「継続は力なり」です。持続走練成隊での経験を